

I 教育目標

学校教育目標

奥多摩町立古里小学校に学ぶ一人一人が、郷土奥多摩の誇りを胸に、持続可能な社会の創り手となり、世界を羽ばたく人材（グローバル人材）となることを目指し、ここに奥多摩町立古里小学校教育目標を定める。

「いのちを大切に 共に輝き 生きていこう」

かしこく なかよく たくましく

目指す児童像及び育成する主な資質・能力は以下の通りである。

（１）かしこく……学ぶ楽しさを知り、生活に生かすことができる児童

【育成する主な資質・能力】

- ① 主体的に学習に取り組む態度
- ② 基礎的・基本的知識・技能
- ③ 考えを広げ深める力（多面的・多角的な思考・判断・表現力）
- ④ 郷土、異文化理解を深める力（体験のシャワー）

（２）なかよく……人と心を通わせ、自分の力を生かすことができる児童

【育成する主な資質・能力】

- ① 美しさや善さを求める心と正しく判断し行動する力
- ② 自他を尊重する態度、自己有用感と自己肯定感
- ③ 協力・協働・社会性のスキル
- ④ 共創型対話力（コミュニケーション能力の発展形）

（３）たくましく……丈夫な体で、ともにより良い生活を築くことができる児童

【育成する主な資質・能力】

- ① 健康・安全に対する意識と知識・技能
- ② 体力の向上に対する意識と態度
- ③ 自立・自律、調整しようとする態度
- ④ 最後までやり遂げようとする態度（七転び八起きの力）

II 目指す学校像

- (1) 児童に自信をもたせ、夢に向かってより良く生きる力を高められる学校
 - ① 自他を尊重し、多様性等を認め合う心と態度を育てる。
 - ② 児童の実態を反映して作成した授業改善推進プランに基づいた授業を行い、確かな学力の定着を図る。
 - ③ 体力向上・健康増進に関する取組および相談体制の充実を図る。
- (2) 保護者・地域の方から信頼され、協働して教育に取り組む学校
 - ① 教職員が服務規律を順守して教育活動に取り組む。
 - ② 社会に開かれた教育課程を展開するとともに積極的に情報発信を行う。
 - ③ 保護者・地域、学校運営協議会等の願いを踏まえ、協働して教育活動を行う。
- (3) 新たな課題に主体的・組織的に対応する学校
 - ① 情報を共有し、目標への意思統合を図る。
 - ② 校務分掌において担当の明確化及び組織的対応を図る。
 - ③ 校内外の連携を推進し、課題解決に向け積極的にチャレンジする。

III 学校経営の目標

1 中期的目標

「子供たちの豊かな心と確かな思考力、健やかな体を養う！」

- (1) 校内研究を軸に教科指導のより良い在り方を全教職員が追求し共有していく。その中でノート指導や思考ツールを工夫する等しながら書く活動の充実を図り、児童の「書く力」を養う。これにより自らの考えを練り上げる力、発表力、他と協働して意見交換しながら取り組む力を高め、ひいては確かな学力の定着を図る。
- (2) 教育活動を ESD・SDGs と関連させ、教科横断的な指導の充実を図る。これにより学習した内容を児童が実際の生活の中で活用する力の向上を図る。
- (3) 教師一人一人が専門性を高め、それを日常的な OJT により全教職員で共有し、個々の児童の課題に応じた指導へと結び付ける。
- (4) 児童に多様な人や学びとの出会いを数多く提供し、物事に対する興味関心を高め、学びに向かう力を涵養する（体験のシャワー）。また、学校はこの実現に向けカリキュラム・マネジメントを推進する。そのために「地域学校協働本部」を活用する。
- (5) 児童一人一人の自己有用感、自己肯定感を高め、自他の多様性等を認め、豊かな人間関係を構築する力を育成する。
- (6) 教育活動全体を通して、児童を認め励ますことを心がけ、粘り強く継続して取り組む力「七転び八起の力」を育む。

2 本年度の目標

- (1) 特別の教科 道徳において「考え、議論し、実際に行動しながら学ぶ道徳」の一層の充実を図

るとともに、授業で活用する資料をはじめとした指導法の工夫の共有化を推進する。また人権教育の一層の推進を図る。

- (2) 本校の学力面における課題克服のため算数少人数指導を軸に各学年間におけるノート指導の系統的発展、効果的なICT活用等に全校で取り組み、児童の学力向上へとつなげていく。ICT活用面では、タブレット端末と共に電子黒板の有効活用の仕方について共有を図る。
- (3) グローバル人材の育成に向け、コミュニケーションの道具としての外国語教育を充実させる。その中で児童が実際に英語を使う活動を多く設定する。
- (4) 読書や音読への取組や多摩の子、校長室検定の取組を軸に言語活動の充実を一層図る。
- (5) 教職員及び保護者、地域の特別支援教育の理解を一層進めるとともに、関わりをもつ大人全員による児童理解を深め、児童一人一人の特性に応じた適切な指導に努める。尚、引き続き学校生活全般にわたりユニバーサルデザイン化を一層推進する。(真の少人数教育の実践)
- (6) 保小中間の連携を密に図り、小学校段階で取り組むべき内容を全教職員が理解し、共通理解の基、指導を行い、スムーズな進学へとつなげていく。「つなぎ・つなぐ」
- (7) 児童の健康や安全、体力に関する意識を高め、健康を保持増進する資質や能力を育むとともに、体力向上への取組の工夫やがん教育を推進する。特に多様な運動への取組(バスケットボールやボルダリング等)を推進する。
- (8) 地域・保護者と連携を深め、地域の人材及び素材を生かした「ふるさと奥多摩学習」をESDやSDGsとの関連を図りながら展開し、奥多摩町の郷土に根ざし、ふるさと奥多摩を誇りに思い、愛する心を育成する。また、この取組を保護者や地域へ周知すると共に日々の生活における持続可能な社会の実現に向けた実践へとつなげていく。
- (9) 「チーム古里」として、学校教育目標の実現に向け、職層および校務分掌等を活用した各種OJTの実践を中心にスキルの共有化を図り、柔軟かつ機動力のある組織作りを推進する。

IV 経営の具体策

- 1 個に応じた指導の充実に努め、思考力・判断力・表現力等の育成を図り、児童が学ぶ楽しさを知り、自ら学びに向かう力を育成する。(真の少人数教育の実践)
 - ① 全教科領域における授業のユニバーサルデザイン化を一層推進する(重点:参加の促進)。
 - ② 校内研究において本校児童の課題となる力の育成を図るべく指導法研究に取り組み、教員の指導力向上ひいては児童の学力向上を目指す。研究で取り組む教科としては生活科、総合的な学習の時間を扱い、児童の共創型対話力の育成を引き続き図っていく。
 - ③ 問題解決的学習、主体的・対話的で深い学習(アクティブ・ラーニング)を中心に、児童が自分の考えをしっかりとって学習に取り組み、そしてその自分の考えをまとめ他者へと表現することができる力の育成を図る。
 - ④ 様々な体験的活動を通して児童の興味関心及び学びに向かう力を高めるとともに(体験のシャワー)、体験を様々な学習場面で生かす力(生きて働く知識・技能)を育成する。
 - ⑤ 親子読書旬間の設定や各種読み聞かせ等を効果的に実施し、家庭に向けても読書を推奨する(家庭への図書貸し出しシステムの運用)とともに、俳句、詩の音読、暗唱、落語教室等

の諸活動の充実や多摩の子への取組を通して児童の言語能力の向上及び読書好きの児童を育てる。

- ⑥ 週ごとの指導計画や児童の実態を基にした授業改善推進プラン作成及びその活用を通した指導を実施し、児童の学びに向かう力の向上を図る。また、認め励ます指導・評価の在り方を常に改善し、児童の思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
 - ⑦ タブレットP Cや電子黒板、各種 ICT 機器、ソフトを活用し、児童一人一人が「分かる分かった」を実感できる授業を展開していく。
 - ⑧ 音読、暗唱、漢字、計算等の繰り返し学習や、毎時間の振り返りや日記等の書く学習、その他学習用ソフトを活用して、10分×学年を目安とした家庭学習の習慣化を図る。これらにより基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
 - ⑨ OJT 推進に向け、「OJT タイム」「OJT コーナー」「OJT ウイーク」の取組を活性化させるとともに、授業観察時における教員相互の学び合いを実施し、指導力向上の機運を高め授業力向上を目指す。
- 2 ふるさと奥多摩学習を通して、郷土奥多摩に誇りと愛着をもたせる。
- ① 奥多摩町の自然や歴史、伝統文化等の教材化を推進し、郷土奥多摩の良さに気付く指導を生活科や総合的な学習の時間を中心に学年に応じて工夫する。その際、12年の生活科から6年生の総合的な学習の時間に至るまで、学習内容の接続を図る。この取組を推進させるために「地域学校協働本部」の設置運用を模索する。
 - ② ESD や SDGs とのつながりを考えさせながら学習を展開することで、学習内容を自分事としてとらえる力を養う。
- 3 児童の基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。また、自己肯定感・自己有用感を基に自他を大切に、人間関係を形成していく力を育成する。
- ① 全教育活動を通して人権尊重教育を推進し、豊かな人間関係と社会性を育てる。
 - ② インクルーシブ教育の理念を踏まえ、合理的な配慮の推進を図る。また全教員が特別支援教育について理解を深めるとともに関係諸機関と連携し特別支援教育の更なる充実を図る。
 - ③ キャリア教育を推進し、一人一人に「めあて」をもたせ、継続して物事に取り組む力を育む教育活動を展開する。認め・励ます指導により、自己有用感・自己肯定感を育て、豊かな心を持ち、柔軟で適応力のある子供を育てる。
 - ④ 全教育活動において言語活動（特に書く活動）を充実させ、自分の考えや思いをしっかりともち、またそれを表現する力の育成を図る。
 - ⑤ 「挨拶プラスひと言運動」や相手の気持ちを考えた「温かい言葉遣い」の励行を通し、学校内だけでなく「時と場に応じた言葉遣い」ができる児童を育成するための指導を充実する。
 - ⑥ 「みんなのやくそく」を全教職員の共通理解を基に指導にあたり、規範意識の育成を図る。
 - ⑦ 授業規律「教室で今話しているのは一人」の徹底を図るとともに、「ならぬことはならぬのです」をしっかりと指導し、規範意識を高める。

4 自分の健康・安全は自分自身で守る意欲と態度を育てる。

- ① 安全を守る知識や技能の習得に向け、安全教育プログラム（現在は電子版）の活用を図る。
また、それとともに実際の場面を想定した防災訓練や避難訓練による指導を充実する。
- ② 健康を守り増進させるために、生活リズム、メディアとの付き合い方等に着目した取組の実施や歯の健康、その他健康に関して扱う保健集会等の保健指導を充実する。また、各種感染症への対策として、手洗いの励行や換気等に留意しながら教育活動を進めていく。
- ③ 休み時間の外遊びの奨励、各学期に設定した体力向上の取組を通して、体を動かすことの楽しさを知り、自ら進んで体力作りに取り組む姿勢を育成する。また、「ロング遊び」を設定し、連続した時間の中で体を動かし、体力向上を目指していく。
- ④ 心を込めた清掃活動の実施、日常的な安全点検の実施、教室や廊下等の掲示物の工夫等を心がけ、清潔で児童が心地よく生活できる学習環境の整備を図る。

5 保護者・地域との連携を強化し、教育活動の充実を図る。

- ① PTA や社会教育等と連携し、地域の教育力を生かした学校づくりを推進する。
- ② 学校ホームページや各種お便り等を中心に活動や取組状況を広く公開し、説明責任を果たしていくと共に学校と地域や保護者との間に一体感を構築していく。
- ③ 青梅警察をはじめとした関係機関と連携した「セーフティ教室」を中心に、児童の健全育成の充実を図る。また、家庭と連携した SNS ルールの取組も継続して実施し、地域や家庭との連携強化を多方面で図っていく。
- ④ 「学校防災計画」を見直し、災害時等にしっかりと対応できる避難訓練、不測の事態に速やかに対応できる緊急メール配信の実施、その他危機管理について町教育委員会や関係機関等との協力関係を構築し、地域と一体となって児童の安全を図るようにする。

6 教職員一人一人の力を集め、「学校力」の向上を図る。

- ① 年間通じて OJT を実施（OJT コーナー、OJT タイム、OJT ウィーク）し、教員間の学び合いを通して一人一人の学ぶ力を高め、教員としてのキャリアアップを図る。
- ② 主幹・主任を軸にミドルマネジメントの強化を図り、全ての教育活動に組織的に取り組んでいく。
- ③ 服務事故防止研修や様々な服務に関する情報提供により、服務事故ゼロ、体罰ゼロを継続していく。
- ④ 会議の精選及び効率的な会議の運営を図るため「経営会議」「伝達朝会」を有効活用する。
また、会議資料のデータベース化、ペーパーレス化を推進し校務改善を図る。
- ⑤ 時数の確保策の一環として、特別時程の日を計画的に設定する。またその日が月曜日の際はオンライン朝会とする。
- ⑥ 事務主任との連携を常に意識し、意図的・計画的な予算執行に努め、限られた予算で最大限の効果を上げるよう予算の効果的な活用を図る。

V 特色ある教育活動

1 基礎学力向上に向けた取組

- ① 学習環境及び授業のユニバーサルデザイン化を推進し、児童が「分かる、分かったを実感できる授業」を展開する。これにより児童の自己有用感・自己肯定感を高めていく。また毎時間の授業のねらいを明確にし、児童の学びに向かう力の育成向上を目指す。
- ② 特別支援教育コーディネーターを中心に SC、心理士、羽村特別支援学校他関係諸機関と連携し、専門的知見を基に特別支援教育の更なる充実を目指す。
- ③ 各種学力テストや検定を実施する機会を設定し、児童の学びの状況を確実に確かむと共に児童の学びへの興味関心を高めていく。
- ④ 言語活動の充実を一層図る。(音読朝会、親子読書句間、多摩の子への取組、俳句、詩の暗唱(校長室検定)、学習発表会、読み聞かせや落語教室の実施等)
- ⑤ アクティブ・ラーニングの推進(多角的・多面的なものの見方(クリティカル・シンキング))を一層図る。
- ⑥ 各教科及び家庭学習において I C T 機器等を活用し、学習内容の定着を図る。またこれらを感染症等による長期欠席児童の指導等にも活用できるよう備えていく。

2 外国語・外国語活動の充実

- ① ALT との連携を深め、活動や指導内容の充実を図り、英語を使うことへの抵抗感をなくす。
- ② 各種外国語学習プログラムの活用や東京グローバルゲートウェイ訪問(5年)等を実施し、英語を実際に使う楽しさを味わわせ、英語を学ぶことへの関心・意欲を高める。

3 音楽活動の充実

- ① 音楽教育の充実を図り、児童に歌うこと・演奏することの楽しさ、美しい声や音で歌い演奏することの心地よさを味わわせ、音楽好きの児童を育成する。その成果を学習発表会や連合音楽会、音楽集会等にて発表する。

4 体力向上・食育・健康教育・学校 2020 レガシーの取組

- ① 体力向上旬間を各学期に設定し、興味関心を高めながら取り組んでいく。また、これらを通してやればできることを実感させ、「七転び八起の力」を育成する。
- ② 「L あそび(ロング遊び)」の時間を設定し実施していく。また、外部人材を積極的に活用し、バスケットボール等の多様な運動に取り組ませ、体力向上を目指すとともに生涯にわたってスポーツなどに親しむ「豊かなスポーツライフを実現する力」を育成する。
- ③ 栄養士や専門家と連携した食育指導、歯科医と連携した歯科指導等を推進し、自分の健康を意識した生活ができる児童を育成する。
- ④ 毎日の健康観察や適切な感染症予防対策を実施する。また、がん教育やノーメディア等に積極的に取り組み、健康教育を推進する。

5 保育園、中学校との連携(小中保の連携)

- ① 中学校及び保育園との交流・連携の推進を図る。これにより入学時のギャップを解消し、スムーズな進学につなげる。また、情報の共有化を中心とした「つなぎ・つなぐ」を常に意

識した取組の実施を図り、不登校の未然防止・早期支援を実施し、不登校ゼロを目指す。

6 高齢者福祉施設や障害のある方々との交流

- ① 町内にある高齢者福祉施設を訪問したり、各種教育プログラム(障害のある方々との交流)を活用したりして交流を図り、児童の人権感覚を養うと共に豊かな心の育成を図る。

7 キャリア教育の視点に立ち、地域の教育資源を最大限生かした教育活動(ふるさと奥多摩学習)をESDやSDGsとの関連を図りながら実施

- ① 林業体験、椎茸栽培、郷土芸能(篠笛)、ヤマメ教室(飼育)、ワサビ栽培、治助いも等の野菜栽培、田植え稲刈り体験、ビオトープを活用した飼育・観察、生け花教室他
- ② 地域の方と共に進める様々な学習活動の実施(篠笛、ヤマメ教室、ワサビ栽培、生け花等)
- ③ 郷土をめぐり、触れ合いを通して郷土奥多摩を知る学習の推進